

記録  
ビデオ  
カラー／23分

- 自主企画
- 指導  
遠藤友麗（文部科学  
省初等中等教育局視  
学官）
- 協力  
（財）日本視聴覚教育  
協会  
平山郁夫（日本画家  
東京藝術大学学長）  
絹谷幸二（洋画家）  
さのちづこ（絵手紙）  
江面忠信（日本画家）  
本田翔穂（全日本積  
穂俳画協会）  
渋谷区立笹塚中学校  
上越市立城西中学校

スタッフ

- 製作  
福間順子
- 脚本・演出  
村山正実
- 進行  
米村栄子
- 撮影  
西山東男
- VE  
今野聖輝  
小原静二
- 照明  
木村光男
- 選曲  
山崎 宏
- 編集・録音  
テレットツップ
- 解説  
佐藤浩之

文部科学省特選 2001年教育映像祭最優秀作品賞・文部科学大臣賞

日本美術のよさとは一体何だろうか。それは四季の中で育まれた想像力や美意識であり、独特の表現法である。生活に豊かな彩りを加え、記録でもあった日本の絵画。日本の伝統を理解し、そのよさを活かした表現の工夫が大切と訴える。



日本の絵画の特徴は、心の中に生まれたイマジネーションを大切に  
して、そこから表現へ向かっている。これは霧、霞、雲などの美し  
い、湿潤で四季の移り変わりのはっきりした日本の風土が、想像力  
や美意識を育み、余白や空間を活かした表現を生み出したといえる  
だろう。

また、屏風や襖絵や掛け軸などを普段の生活の中で使ってきたが、  
絵画は、生活を心豊かなものにし、生活を記録するものとしても残  
していくものであった。同じモチーフでも現代に作られたものと昔  
のものを比べてみると、その表現は全然違う。日本の伝統を理解し、  
その中から新しいものを作り出していくという意識が必要である。  
生活の中でのコミュニケーションの材料として、また生活を潤わせ  
るものとしての絵画がある。